

令和5年度 第2回大阪府河川整備審議会 議事要旨

日時 : 令和5年9月20日(水) 16:00~17:30
場所 : 大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター) 大会議室2 (WEB併用)
出席者 : (委員) 里深会長、大久保委員、小林委員、菅委員、中桐委員、平松委員 計6名
(欠席) 岡井委員、阪本委員、中村委員

内容

- (1) 大和川水系西除川ブロック西除川の河川整備の事業評価について
 - ・西除川の事業評価について、対応方針等の説明を行った。
- (2) 石津川水系石津川の河川整備の事業評価について
 - ・石津川の事業評価について、対応方針等の説明を行った。

概要 : [以下、○委員 ●事務局]

- (1) 大和川水系西除川ブロック西除川の河川整備の事業評価
 - 西除川(狭山池ダム下流)のBが上昇した理由は浸水区域内の世帯数の増加である。浸水区域内での世帯数の増加は、水害の危険性が高まっていると言える。
 - 治水の観点から踏まえ立地適正化計画を作成しないと、今後の気候変動に対応できないため、流域の自治体と連携して土地利用の適正化を図り、浸水リスクの低減に努めていただきたい。
 - 立地適正化計画の推進だけでなく、河川改修も併せて推進することが重要であり、流域の自治体と連携して土地利用規制を推進していくことが必要である。
 - 防災の専門家による講演やコミュニティタイムライン等の取組を記載しているが、こうしたソフト対策の活動は流域治水プロジェクトの一環として実施しているのか。また、地元住民は超過洪水の発生について、どの様に認識しているか。
 - コミュニティタイムライン等の取組は、流域治水プロジェクトの策定前より実施している。浸水リスクについては、現在の改修状況と想定最大規模の洪水浸水想定区域を踏まえてコミュニティタイムラインの取組を推進しており、住民の方々も超過洪水の認識は持っていると考えている。
 - 気候変動や社会環境の変化を踏まえて、定期的にB/Cの確認を行い、合理的な河川改修を実施する必要がある。
- (2) 石津川水系石津川の河川整備の事業評価
 - 事業進捗が遅れている原因について、仮設工法の変更という説明があったが、事業費も大きく増加しており、人材不足による事業進捗の遅れも懸念される。今後、万博開催に向けた工事の影響によるコストの上昇や、人材不足による進捗の遅れの可能性はあるか。不落などの恐れはないか。
 - 現在までの工事において、社会的要因による進捗の遅れなどの影響は見られず、入札不調なども発生していない。
 - 西除川・石津川で魚道を整備しているが、渇水時に魚道に水が流れているか、堆積物による魚道の閉塞がないか等、魚道が機能しているかについて確認しているか。また、可能であれば魚道を利用している魚類の調査など効果検証を行ってほしい。
 - 渇水時にも水は流れており、閉塞等は確認されていない。魚類の調査を今年度実施予定であるため、魚道の効果なども含め調査を実施する予定である。
 - 流域治水の取組に関する情報の共有、治水事業推進との関係や課題等はあるか。
 - 流域治水の取組については、府内各地域の「水防災連絡協議会」において取組の情報共有等を行っており、引き続き協議会において取組の推進、情報共有を進めていく。
 - 河川のハード整備だけをすれば良い時代ではなくなっている。河川整備を実施したために浸水リスクの高い土地の市街化が進むこともあるため、土地利用計画も考える必要がある。
 - 日本で発生する災害の規模は、避難が可能である場合が多い。河川の整備規模以上の洪水が発生すると氾濫する認識をさらに浸透させていくことが重要である。
 - 想定最大規模等の超過洪水が発生することもありうることを前提として、流域全体での取り組みを推進することが必要である。